

## 支部だより

### 平成十七年北海道朝陽会

気象の世界では特異日という日があるそう  
だ。一年のある特定の日の天気は、晴れあるいは雨などとは決まっている日のことだ。一九六四年開催の東京オリンピックの開会式十月十日もそんな特異日の一つで、当日は見事な秋晴れであったことをご記憶の諸兄諸姉も多いと思う。実は、毎年北海道朝陽会が開かれる七月第一土曜日の札幌もそんな日の一つではないかと密かに信じている。勿論、暦日ではなく第一土曜日などというのは、特異日の定義から外れるし、今回で二十二回のうちには天気が悪い年もあったと聞いているが、少なくとも小生の記憶では傘を持って北海道朝陽会に参加した覚えはない。そして、平成十七年七月二日(土)も夏の北海道らしい爽やかな青空が広がった。

今回の参加者は、朝陽同窓会本部から特別参加の中21松本雄吉さん、7吉村悟さんのお二人を加えて二十三名。また今年は、北海道朝陽会創成期に、ご主人の松野功さんとともに幹事を務められ、その後ご家族で東京に移られた松野淳子さん(ご夫妻とも二十七回)にも久し振りにご参加を頂いた。参加者ほとんどが一年ぶりの再会となるが、取り分け、中12池上義治さん、中14伊藤尚蔵さん、中20寶示戸貞雄さんなど長老方のお元気なお顔を拝し、中21遠藤良三さんの相変わらずの存在感に圧倒される。

しずつ現役から足を抜こうとしているわが身を顧みて、まだまだ年寄面をするには早過ぎるという気になる。これも世代を超えた同窓会の効用のひとつかも知れない。

ところで、毎年会場として使っている札幌グランドホテルは、札幌にいらしたことがある人なら大抵の人はご存知の北海道最初(一九三三年開業)の近代的なホテルである。しかし、このホテルが一九四〇年の幻の札幌オリンピックの開催に向けて作られたことは、余り知られていない。戦争拡大のため東京オリンピックとともに中止になったが、その三十二年後の札幌オリンピックでは中心的な役割を果たした由緒あるホテルである。そこで例年通り、時の経つのも忘れて飲みかつ喋り、時間が来れば「六中健児の歌」を歌ってお開きになるが、まだまだ別れ難くて、これも例年どおり、遠藤先輩のご好意に甘えて、同ホテル内のビアホールに場所を移して、一年間の積もり積もった話に興ずるのであった。

今年(二〇〇六年)の北海道朝陽会は、七月一日(土)午後六時から札幌グランドホテル新館の最上階で開催されます。その頃、出張や観光で札幌に来られる予定のある方は、是非幹事にご一報下さい。大歓迎します。

(18) 山崎一彦 TEL011-205-5011  
yamazaki@hamanatsu.or.jp)